

第4回アジア・太平洋水サミット 第2回合同実行委員会
議事要旨

【委員会開催概要】

日時:2020年(令和2年)5月13日(水)16時30分~18時13分

場所:ウェブ会議にて実施

○事務局より、以下について説明を行った後、各委員からご意見をいただいた。

- (1) 4th APWS の延期及び今後の対応について
- (2) サミットの成果(熊本宣言(仮称))の考え方及び分科会の構成(案)について
- (3) ロゴマークについて

【委員からの主な意見】

(4th APWS の延期に関する意見)

- ・4th APWS の1年程度の延期は安全な策であり、正しい選択。(ザヘディ委員代理、バムジー委員、ナラヤナン委員、パネラ委員、渡邊委員、他)
- ・2021年は延期になった会議で目白押しとなるため、他の重要なイベントの日程と重複しないよう調整すべき。(ザヘディ委員代理、バムジー委員)
- ・4th APWS 事務局は、新日程をただ待つべきではないと考える。サミット開催までの間、科学技術や研究開発の分野、教訓、コミュニティがどのようなことをしてきたか、パートナー組織がどのようなことをしているのかについてウェブセミナーを開催してはどうか。(カーン委員)
- ・4th APWS の新日程は、2021年度に拘る必要はない。(沖委員)
- ・新日程については、誰もが安心できる日程での検討をお願いしたい。(パネラ委員)

(COVID-19(新型コロナウイルス感染症)の教訓に関する意見)

- ・COVID-19についての議論の柱を立てるべき(柱を立てたことを強調すべき)。(ザヘディ委員代理、バムジー委員、沖委員、今井委員、天野委員代理、他)
- ・WASH(水、トイレ、衛生)へのアクセスとCOVID-19の大規模発生場所との関係や、WASH施設の整備を加速させるような復旧策がありうるのかといった議論が考えられる。パンデミックに対する強靭性をどのように構築していくのかについても議論することを提案する(ザヘディ委員代理)
- ・COVID-19の水分野への影響と、水分野の対応を議論に組み込んでいくべき。COVID-19対策に、水はなくてはならないものである。(バムジー委員)
- ・開発途上国の中でも、難民、移民や都市部の低所得者、スラム住民等は、社会保障や医療システム、適切な公共サービスを受けていない、又は知識や手段を欠いており、感染リスクが高い状態にある。スラム地区は爆発的な感染拡大を招きやすく、一度感染すると封じ込めが困難である。また、インフォーマル経済分野での不安定な職業や収入に依存せざるをえない人々は、COVID-19によ

るの影響により職や生活の場を失いやすく対応が必要。政府間のマクロレベルの ODA 支援に加え、特に課題に直面する社会的弱者へ直接支援の手を差し伸べていくことも重要。日本を含めた東アジアは、COVID-19 の封じ込めに成功した好事例として世界的に注目されており、高度な最先端技術だけではなく中間技術も含め、予防や封じ込めに有効であった技術や慣習など、水・衛生分野における経験の収集・整理と共有化を各国と連携して行い、4th APWS で教訓としてまとめることが重要。(是澤委員)

・COVID-19 からの教訓は連携であり、協力することの重要性である。(ナラヤナン委員)
・COVID-19 は貧困と水の関係を注視するきっかけとなっている。水と食料とエネルギーだけでなく、保健・衛生・貧困・ジェンダーなどについても相乗効果とトレードオフ関係について議論できれば良い。また、COVID-19 とリスク管理に関することは、強靱性やより良い復興(ビルド・バック・ベター)の観点から議論すべきである。(沖委員)

・COVID-19 に対して水セクターの関係者が取り組んでいる強靱性向上に関する取り組みも、4th APWS の中で明確に示していくべき。分科会では、人々の健康面のみならず、経済社会的な影響についても議論したい。(パネラ委員)

・WWC(世界水会議)としても、様々な国や機関と、水の安全保障分野のみならず他の分野でも 4th APWS に協力していきたい。中国は、この感染症拡大に対して効果的に対処し、他の国と情報共有を行った。他の国が求めれば、医療や薬だけではなく、技術的・経済的援助を行った。将来的に、更なる協力が必要と考える。(シー委員)

・感染症の改善策について議論してほしい。(麻生委員)
・COVID-19 により最も影響を受けたグループの一つである企業、産業界に、より積極的に参加を呼びかけるべき。(今井委員)

・サミットで教訓をまとめる、というメッセージは早めに出した方が良い。(天野委員代理)
・途上国の食料の安定供給は感染症に対する備えも重要であり、農村での水関連施設の整備の重要性についても議論したい。(渡邊委員)

・日本での死亡者数が比較的少なかった理由は、手洗いの習慣が浸透していたとも言われている。今後検証が必要かもしれないが、そのような習慣や文化が重要であることを共有してはどうか。COVID-19 終息後の世界に向けて夢や希望を与えるような発信、災害復旧や災害中の水防の活動について、できるだけ少人数もしくは無人で行う等の技術開発についての発信も重要。(山田委員)

・上下水道が整備されており、水道水が飲める国でも、COVID-19 のパンデミックは発生した。日本や中国、韓国では踏みとどまり、パンデミックが発生していない発展途上国もある。コミュニティが機能していることが重要なのではないか。インフラ の整備は重要だが、これまで国連などで考えていた単純に何か新しいものをプラスして良くしていく考え方で本当に良いのか、本気で考えるべきではないか。これまでにない別のやり方について、もう一度研究することが大事。(丹保副委員長)

・新たな感染症予防を含めた水との関係、そして経済との関係など、より世界に関心を持ってもらえる内容の設定が重要。(大西副委員長)

(質の高い成長に関する意見)

- ・水関連やその他全ての問題への対応の枠組みとして SDGs の枠組みは維持すべきである。質の高い成長は、特に COVID-19 の状況を鑑みると、広く貧困対策などを含め、SDGs の目標6など水関連の目標に対する進捗状況や達成の加速に注目しておくことが重要。(ザヘディ委員代理)
- ・水の安全保障に関する世界の状況を見通し、水関連課題の解決に向けて実際に行動するようなサミットにしなければならない。サミットでファイナンスが議論されることは非常に重要。宣言文書が具体性を持ち、実施のための手段を網羅する内容であることが重要。(バムジー委員)
- ・APWF パートナー機関の取り組みや教訓を統括し、集約して、4th APWS の議論に反映すべきである。また、世界各地のコミュニティが置かれている状況や、成功事例、最大の障害(ボトルネック)について焦点をあてるべきである。SDGs はもちろん、仙台防災枠組も非常に重要であり、これがどのような形で持続可能なインフラ整備と関連し合うのか、回復のために果たす水の役割について、幅広く見ていくべきである。(カーン委員)
- ・COVID-19 のパンデミックで、現代社会の様々な脆弱性が明白になったことから、将来同じ過ちを繰り返さず、より持続可能な社会を形成するという観点が重要。(是澤委員)
- ・質の高い成長を考える上で、ガバナンス、ファイナンス、科学技術の3点について議論することは重要であるが、特に途上国においてはファイナンスが重要。(沖委員)
- ・ユースや若い水分野のリーダーを 4th APWS のプログラムに明示的に組み込んでいくのが良い。将来を担う若い世代は、サミット出席者から知恵を得ることができるし、逆に、新しい価値ある視点も提供してくれるだろう。これらは、水の安全保障が確保されたアジア太平洋地域の形成の一助となる。(パネラ委員)
- ・安全や環境のインフラ整備について具体的な提言や行動を行うために、先進国が協力してアジア太平洋地域の課題を解決していく協力体制が必要。具体的な KPI(重要業績評価指標)を設定し、各国はいつまでに何%改善をしていくかを共有し、具体的なストレッチ目標(達成できるレベルより少し高め)の目標を持つことが必要。(麻生委員)
- ・事前予防の必要性を、日本の河川整備やダムの建設が効果を発揮した事実をもって世界へ発信してはどうか。(山田委員)

(上記以外の意見)

- ・4th APWS に向けて、子どもたちを対象にした絵画や作文のコンクールを実施するのも一案。(是澤委員)
- ・熊本宣言には、これまでのサミット宣言を参照し、継続感も出すべきである。(ナラヤナン委員)
- ・ADB は APWF と共に、「アジア水開発展望(AWDO)」を紹介しており、現在作成中の AWDO2020 の成果についても共有ができると思う。水の安全保障の多面的側面や、水の安全保障のためのファイナンスやガバナンスについても、OECD と共に準備を行っており、AWDO2020 の成果を、分科会で発表することは可能。ADB の思考方法や開発途上国の加盟国の考え方等の提

供、テクニカルなサポートも行うことができる。(パネラ委員)

・アジア太平洋地域のメディアへ協力を呼び掛け、水問題の重要性を訴えていくことが必要である。

(今井委員)

・地下水と水循環に関わる課題を主要なテーマとする分科会の開催は欠かせない。熊本での実践と継承も、一つの柱として、熊本だけではなく日本の経験も柱にして、アジア太平洋の議論の中に組み上げていくことが必要と考える。(渡邊委員)

・分科会と同時に開催されるサイドイベントと展示会について、4th APWS 本会合と一体化して企画運営していくことが大事。熊本では様々な団体や個人と行政とが良好な関係を構築して水に関する活動をしているが、このような連携を外側に広げて、4th APWS を地域全体で盛り上げていくことが必要。(渡邊委員)

・サミットの成果を戦略的に伝えるために、今後開催される水に関する主要な国際会議と一層の連携を図ることも重要。(山田委員)